

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター
 実施月日：令和2年9月4日
 実施場所：大郷町物産館2階会議室 他
 (単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
(1)	令和2年度普及指導計画について
(2)	プロジェクト活動の取組状況について
No.1	省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上
No.2	中山間地域農業を支える地域営農体制の構築
No.3	GAPを活用した現場力の向上
No.4	6次産業部門の改善による経営力の向上
No.5	先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	2	マスコミ	0
農業関係団体	2	民間企業	0

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
(1) 令和2年度普及指導計画について	[4.6]	<ul style="list-style-type: none"> 重要な課題に対して的確な普及指導計画が立てられている。 対象が明確であり、課題・目標達成のための工程が共有され、実践されている点がすばらしい。 決して多くない普及員の人員で様々な角度のニーズに対応する支援がなされいていると思う。 いろいろな地域の農業のあり方、災害や集落営農などの問題があり、これからも技術支援等、頑張ってもらいたい。 課題の設定分野に偏りがなく、また、各地域にバランス良く配置されている。 継続的な取り組みの中で、地域や組織の取り組み毎に課題の「見える化」を行い、その課題を解決するため、適切な支援が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域や担い手の課題解決に向け、支援していきます。
(2) プロジェクト活動の取組状況について No.1 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上	[4.4]	<ul style="list-style-type: none"> 水稲の直播栽培については、小さい面積から始め、成功させてから拡大することは堅実である。 チェックリストを活用して、水稲の直播栽培の単収が、目標収量を達成する見通しが立っていることは素晴らしい。 水稲の直播栽培については、個人的にも興味があり、収量や栽培管理などに注視したい。 活動内容のチェックリスト項目を設定するなど、生産者自らが取り組み、栽培管理の判断ができるような指導支援は評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や担い手の課題を整理した上で、重要度や緊急度の高いものから対象を明確化しプロジェクト課題を選定していますが、普及活動（重点・一般）も含め現場の課題施策の方向をしっかりと関連づけた活動と説明に努めていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 支援により、確実に省力化技術（直播栽培）の習得が図られている。今後は、品質及び単収の安定をめざし、面積拡大が図られよう支援願う。 経営面積の拡大に比例して直播栽培の取組面積が少ないと思われるので、面積を拡大しつつ収量向上に繋がった方が管理費等を抑制でき、所得向上になるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営への影響（収量減）を考えつつ、若手社員の技術向上を優先に取り組んでいきます。 直播栽培チェックリストは、社員が使いやすいと、また、他の経営体でも活用できるよう工夫していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 大豆転作組合をベースとした農業法人に対して、技術面から経営面まで丁寧な指導が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社員の直播栽培の技術習得が確実に進んでいると考えています。現在の面積で収量及び品質を安定させ面積拡大に繋がるよう支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 経営ビジョンの実践支援は、他の経営法人などにとっても非常に有効だと思われるため、是非、支援内容等を一般化して他の経営体への波及を図ってほしい。 親から子への承継でも難しいと伺っている。目に見えない財産（経営者の想い、技術のノウハウなど）を共有化し、理解してもらいながら経営承継を進めることは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 管内及び県内で類似の課題を抱える経営体にとって参考となる取組事例となるよう、まとめ方と情報の発信の仕方を検討します。
		<ul style="list-style-type: none"> 昨年より良い結果が出ているようで、社員も増え、今後の組織運営に期待したい。 安定経営に向けた効率化などの体制確立を願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営承継を含め、経営ビジョンや経営計画の達成に向けて組織運営が円滑に行われるように支援します。また、経営規模が年々増加していることから、安定経営に向けて現場管理システムの活用などを提案していきます。
No.2 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築	[4.1]	<ul style="list-style-type: none"> 理念、取組としては強く賛同する。一方で、経営的に成り立たないと、次の世代はついて来ないので、是非成功させてほしい。 高齢化・担い手不足等の課題に直面している中山間地域で、農家との話し合いにより、基盤整備、法人設立、主力野菜の選定等が進められており、さらなる支援で地域農業の安定化が図られると考える。 地域の問題をきちんとリサーチし、まず、農業地域として再生、存続できるように、具体的な農産物を打ち出している点が良い。 将来の地域営農を支えるために、中山間特有の課題を乗り越えるために高齢者を支援して主体的に取り組ませる指導方法は評価できる。 厳しい状況にある中山間の集落営農組織に対し、収益性向上と法人化をパッケージした支援が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤整備後には次世代につなげられるよう法人経営体を中心とした地域営農体制確立へと支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が多くなるのに、タマネギ、ニンニク、ネギという園芸作物の作業性が大変ではないのか。収益性も心配される。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な視点とそれぞれの作業性等も考慮した機械導入計画の作成を支援するなど、

		<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な考えで、作物の選定をしてもらいたい。今の作物で本当に持続可能な法人になっていけるのか。 	<p>高齢者に負担がかからない持続可能な営農展開を支援していく考えです。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・導入品目の再選定もしくは販売管理費の見直しが必要ではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入品目及び販売管理費の状況によっては、法人経営の安定に影響があると思われるので、再度、JA 仙台西部営農センター等関係機関で検討していきます。
No.3 G A Pを活用した現場力の向上	[4.2]	<ul style="list-style-type: none"> ・G A Pの推進に関わる支援で、極めて重要度が高い。 ・G A Pを共通のツールとして、働く環境が改善される。ただ作業するのではなく、自分の気づきがモチベーションにもつながっている。 ・全従業員がG A Pを理解するため研修会の開催などを行っているが、引き続きこれからも指導支援が行われることを期待する。 ・法人としてG A Pを取得しても、従業員が理解していないと効果を発揮できないため、従業員全員に理解させることで、意識の改善が図れている。 ・パート従業員の方については、組織のG A Pの取組に対する重要性の認識が薄いように思われるので複数回の研修は必要と思われる。 ・会社、役員だけの自己満足だけでなく、社員全員が共有でき、労働環境も改善できたことは評価できる。 ・現場改善支援はとて素晴らしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・G A Pの意義や法人における農場内のルールが従業員に理解してもらえるようになる方策等について、法人経営者と協力して継続的に支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・実態として必要な支援であることは理解できるが、G A Pに取り組む企業としては、本来従業員に対する教育もしっかり行わなければならないと考えられる。 ・G A Pを理解するのは大事だと思うが、栽培マニュアル改訂に向けた話し合いは少々違うかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人自ら従業員に対し、G A Pに関する教育・訓練が適切に実施できるよう支援します。 ・G A Pに関する内容を栽培マニュアルにも盛り込むことで、従業員スキルアップに結びつけることができると考えており、改訂に向けて今後も話し合いを重ねていきます。 ・「目安箱」にはこれまでにいくつかの意見や要望が寄せられ、改善につながっていることから、一定の成果があったと考えています。今後とも労働安全等の観点からもG A Pへの取組を支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・G A Pの理解を会社全体に意識させることが、作業性と安全性などにつながると感じた。従業員の意見を拾い上げる「目安箱」の設置については不信感がある。 	
No.4 6次産業部門の改善による経営力の向上	[4.1]	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に対する支援で、他法人、農家への波及の可能性が高い支援である。具体的な支援とその効果について、もう少し明確に示されると良いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の経営体に波及しやすいように、実施した管理手法ごとに取り組む際のポイントや効果などを整理します。
		<ul style="list-style-type: none"> ・目に見える数字の改善は、やる気と次のチャレンジにつながる。一方で、数字の管理が目的とならないようフォローをお願いしたい。 ・全国的に6次産業化がうまくいっている事例が少ないと何かで聞きました。普及センターの支援で営業利益（率）の目標が達成しているなら、とても素晴らしいと思う。 ・細かい管理表の作成により、販売実績が見える化することは良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営改善のために数字の管理をしていることを、改めて意識してもらえるように働きかけをしながら支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルス」によるロス量や、販売量などを分析して、これからの売上げが増えることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により売上が減少していますが、影響が最小限となるよう支援していきます。 ・PDCA が定着するよう引き続き支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・販売計画を立てて実績との差異分析を行うなど PDCA の実施支援は農業者の一番苦手とする分野であり、そこを取り上げていることが評価できる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの支援の中で分析して課題を洗い出しており、今後の改善点や目標がしっかり設定されている。引き続きの支援で、より安定した経営を目指してほしい。 ・生産部門と6次産業部門を切り離して経営を分析することで明確な改善点が把握できるので非常によいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した経営が行えるよう引き続き支援していきます。
No.5 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定	[4.6]	<ul style="list-style-type: none"> ・先端的な環境制御技術について、習得支援が綿密に行われており、現場への定着が着実に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の習得については、不十分な部分もあるため、今後も習得に向けた支援を行っていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・経験と勘に頼る農業から、動画マニュアルで、問題の見える化、作業の平準化の取組がわかった。 ・東日本台風のために収益、労働力の減少にあいながらも営農再開している点が素晴らしい。そして、社員の方が、上司から言われずとも作業や課題の検討をする雰囲気になっているのも素晴らしい。 ・指導スタンスが、先導型から伴走型、そして後方支援型へと自立できるよう支援体制を変化させてきたことは評価できる。 ・支援は、被災された経営体からすれば本当に心強いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内で情報共有し、社員自らが課題の把握、対策の検討ができるよう支援していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・東日本台風の被害により中断（中止）した支援計画を改めて設定され、それにより選果等の作業スピードが劇的に早くなることを見込まれている。今後、さらに収量や品質向上を目指してほしい。 ・いろいろと勉強になりました。スマート農業について、もっと知りたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業実証事業で導入予定の機器を早く活用出来るよう支援していきます。また、その活動の成果を発信していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新たに導入する選別機については色の選別も行えるとのことだが、現場のパートの方までその情報は行き届いていなかったようなので、パートも含めたミーティング等を取り入れた方がよいのではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート職員を含めて、作業上の課題等の情報共有ができる仕組み作りを行っていく予定です。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトの取組目標は明確であるが、複数年の活動期間のため、その途中年度の達成度合いが解るような指標を設けてはどうか。 ・可能であれば各プロジェクト活動におけるチーム員の役割分担を示した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度の取り組みの達成度合いや各事項の担当者もわかるよう資料の工夫や丁寧な説明に努めます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト課題の資料で、課題の重要度、緊急度、難易度がすべてA（高い）となっているのが気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要度や緊急度の高いものからプロジェクト課題として選定し、取り組んでいます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動で得られた実績や結果を、さらに他の農家の方にフィードバックしてほしい。 ・対象が明確であり、先進的な事例を教えていただいた。事例の水平展開を楽しみにしているとともに、スマート農業に乗れない農業者のギャップについても考えてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の成果は、他の経営体の支援においても活用を検討していきます。また、スマート農業への取組支援については、今後も進めていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術支援やITによる管理システム支援などいろいろな支援があると思いますが、もっと技術的な支援をお願いしたい。 ・近年、大規模な災害等が頻発する傾向にあり、常日頃、いかに経営を安定させることができるかが重要になってきていると感じるので、今後も担い手の方々への変わらぬ支援をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産改善に向け様々な技術があることから、支援対象に合わせた技術支援を今後も行っていきます。 ・今後も、担い手の方々の経営安定が図れるよう支援していきます。